



Botswana Medical Information



2019年4月

【報道記事抜粋】

● 国家AIDS調整局(NACA)が国家AIDSとヘルスプロモーション局(NAHPA)と改名
HIV 対策の前線に対応していた国家AIDS調整局(NACA)は、新たに、非感染性疾患
(NCD)も含め対応し、大統領府のもと、4月1日より、国家AIDSとヘルスプロモーション局(NAHPA)となる。主にヘルスプロモーションと予防に焦点をあてる。

(5日ボツワナガーディアン)

● ボツワナの結核影響調査

保健大臣は、第5回ボツワナエイズインパクトVと結核感染率調査の開始にあたり、
HIV/AIDS と結核が同時に調査されるのは、ボツワナでも世界的にも初めてであると述べた。

ボツワナにおいて結核が死因に占める割合は、成人死亡原因の13%であり、HIV 感染症の人の死因の40%である。過去4回薬剤耐性のサーベイランスをおこなっており、多剤耐性結核(MDR-TB)は1995年に0.2%であったのが、2008年に2.5%となっている。

一番最近のWHO推定では、新規患者の3.6%であり、再治療者では13%である。

調査は、かつて国家AIDS調整局(NACA)と呼ばれた国家AIDSとヘルスプロモーション局(NAHPA)及びボツワナ統計局によって行われる。

NAHPAによると、本調査は、HIV感染の分布と生物学的な検査により診断が確定した肺結核の感染率を調査する。また、15才以上の人に結核関連症状が出現した時の、医療を求める行動も調査する。調査は世帯へのインタビュー、血液検査、胸部レントゲン、痰の検査、迅速HIV検査が予定されている。

(5日メヒ)

● HIV/AIDS の注射薬

新たな HIV/AIDS の注射薬であるカボテグラビルの臨床試験にて良好な結果が得られたことにより、毎日の薬が内服できない場合、毎月の注射薬に変更できる可能性が開けた。同試験にはボツワナも含め多くの国が参加していた、

(31日—6日サンデースタンダード)

● 抗 HIV 治療薬の入札問題

抗 HIV 治療薬 (ARV) の入札のプロセスについて、4つの医薬品製造・販売会社が異議を

唱えており、入札はイレギュラーで一貫性がなく、政府は1億プラの過剰な支出をしていると主張している。

(3-9日 ボツワナガゼット)

●ヘルスケア提供に関するロードマップ

保健省はメディアブリーフィングにて、ヘルスケアの提供の改善のために、以下7つの重点分野を発表した。

- ① 地方分権化 Decentralisation
- ② ユニバーサルヘルスカバレッジ Universal Health coverage
- ③ 三次救急医療 Tertiary care
- ④ 民間セクターの活用 Strategic Leverage on the private sector
- ⑤ 医薬医療品の物流改善 Supply chain
- ⑥ 研究 Research
- ⑦ スタッフの福利と説明責任 Staff welfare and accountability

地方分権化に関しては、ディストリクトレベルでディレクターを置き、効果的なヘルスシステムを管理する。また、プライマリケアサービスの活性化を促すため、27あるディストリクトヘルスマネジメントチーム(DHMT)を18に再編し、コミュニティーヘルスワーカーを含むリージョナルヘルsteam(Regional health team)と改名する。同チームは雇用、給料査定、調達に関して権限をもち、コミュニティーレベルでヘルスサービスが提供されているか調整し、促進していく役目を担う。

ボツワナ国民の90%は5km圏内に医療機関があるが、医療の質も高める必要がある。ボツワナの5大死亡原因は、HIV/AIDS,虚血性心疾患,脳卒中,下気道感染,糖尿病であり、2007年以降非感染症疾患(NCDs)の占める割合が急増している。

これらNCDsのリスク要因は、安全でないセックス,不健康な食生活,高血圧,アルコールの多用,喫煙であり、これらはプライマリケアが関与する分野である。

ユニバーサルヘルスカバレッジで焦点を当てるべきは、予防,総合的なスクリーニング,早期治療,地域のサーベイランスである。

また、4つの病院, Letsholathebe memorial hospital (Maun), Mahalapye district hospital, Sekgoma memorial hospital (Serowe), Scottish Livingstone hospital (Molepolole)が地域病院から紹介病院へ昇格する。

民間セクターとの協力により、検査,放射線科,施設整備と清掃,食事,洗濯などの分野で業務を補強する。

医薬品不足は、データ収集不足、非効率的な流通、スキル不足により生じているが、電子的情報マネージメントシステムを導入し、必要な医薬品の予測と品目管理を改善する予定。

医療スタッフの安全を含めた福利の重要性も強調した。

(11日デイリーニュース)

●糖尿病シンポジウム開催

2019年糖尿病シンポジウムがハボロネで開催された。ボツワナ糖尿病協会のジョエル医師は、2017年の糖尿病患者は、8万8千人で4.5%の罹患率となると述べた。(14日デイリーニュース)

●マシーレ教育病院が開院延期

24日開院予定の **Sir Ketumile Masire Teaching Hospital** は、開院を延期することを発表した。開院時期は未定で、進捗状況を今後公開すると述べた。

(25日政府フェイスブック)

同病院は、450床で、診察室49室、治療室33室、手術室13室、集中治療室36床と初期フェーズは90人の職員、完全な操業時点では、1000人の職員となる予定であった。(25日デイリーニュース)

文責：高原 野草 (在ボツワナ日本大使館医務官)